

家庭・学校・地域で育む子どもたちの未来

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、感染対策をしながら「できることを、できるときに」少しずつ学校の教育活動や PTA 活動に取り組んだのではないのでしょうか。幡多地区小中学校 PTA 連合会も感染対策をしながら家庭のルールづくりチェックシート、女性役員の給食メニューの掲示、研究大会を行うことができました。11月21日には大月町環境改善センターにて研究大会を新型コロナウイルス感染防止のため人数制限を行いながら開催しました。講師に竹下和男先生を招聘し「弁当の日」について講話をしていただきました。

竹下 和男 氏 講演 「弁当の日～『めんどくさい』は幸せへの近道～」

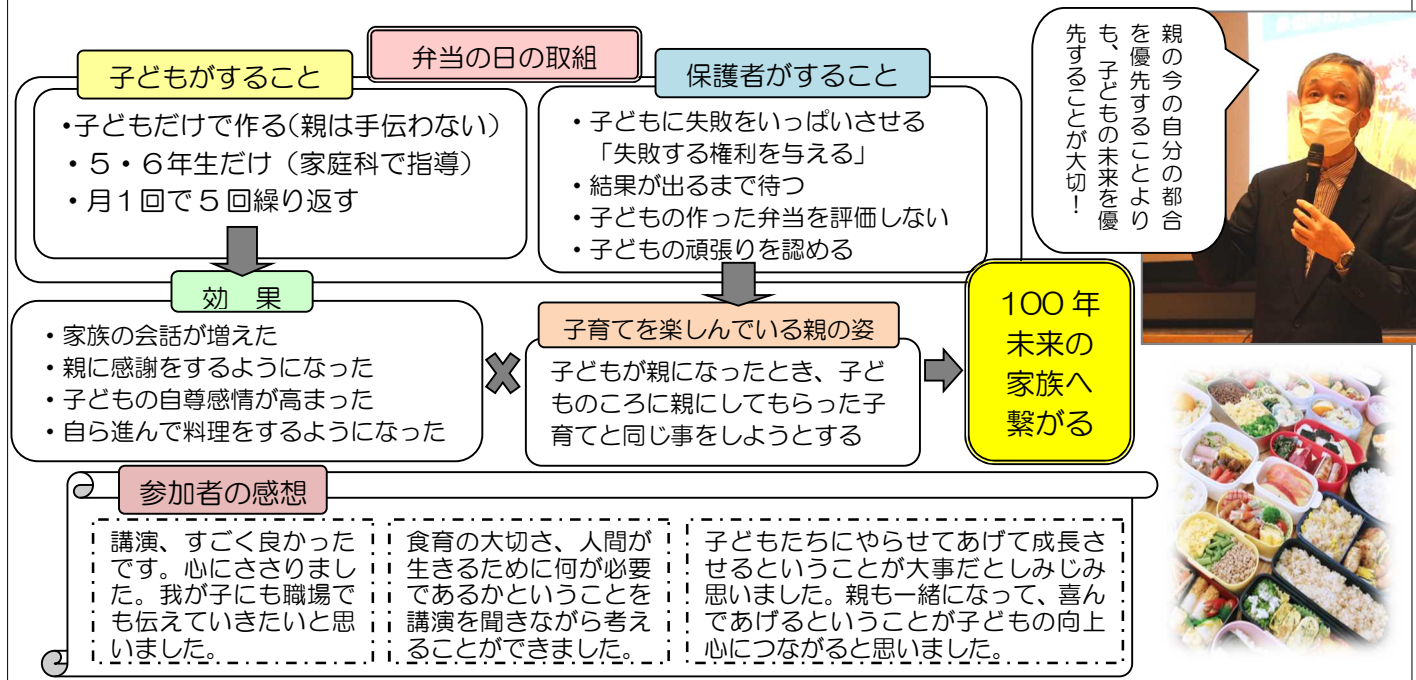
子どもが、自分の弁当を作って登校する「弁当の日」。献立を考え、買い出しを行い、調理し、弁当箱に詰め、片付けをする。その全てを子どもが自分一人で行います。竹下先生は、この実践について、日本各地の小中学校で講演されています。

講演の中で先生は、実話を元にテレビドラマ化されている「はなちゃんのみそ汁」の安武はなさんとの交流についてお話しされました。はなさんのお母さんは、彼女が5歳のときに余命宣告を受け、自分が死んでからの娘のことを思い、その時からはなちゃんにみそ汁の作り方や洗濯、掃除の仕方、また靴を並べることの大切さなどを一つ一つ教えました。そして幼い娘の姿を見守りながら、天国へ旅立ちます。生前のお母さんの歌に乗せ、会場にスライドが流れた時には、多くの参加者が涙を流しました。



竹下先生は、「他人のことを思って涙を流したり理性を働かせたりという人間らしさを司るのは前頭前野。その成長する8歳から19歳に、誰かに喜んでもらうという感覚が育つと、相手の気持ちが分かる人になる。だからこそ、身体やこころが育つ20歳までに、しっかりとした食事を取ることが大切だ。」と話されました。「弁当の日」は、そうした食生活やこころが育つための環境をつくる取組です。

「子どもの行動を見守ることを面倒くさいと思う親がいる。しかし面倒くさいことは、実は大切なことへの気付きにつながる。」竹下先生はそう話されました。先生の熱い思いは、会場の参加者の心にしっかりと届いていました。



『23日は読書の日♪♪』

4月23日は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」で、「子ども読書の日」と定められています。この日にちなんで、毎月23日には、家庭で子どもといっしょに本を読む時間をつくってみませんか。



子どもが選ぶ子どもの本総選挙

- 1位 「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」
 - 2位 「ざんねんないきもの事典」
 - 3位 「あるかしら書店」
 - 4位 「りんごかもしれない」
- NPO 法人 こどもの本総選挙事務局の HP より引用